

平成25年度 決算審査・認定

～依存財源 今後どうなるか～

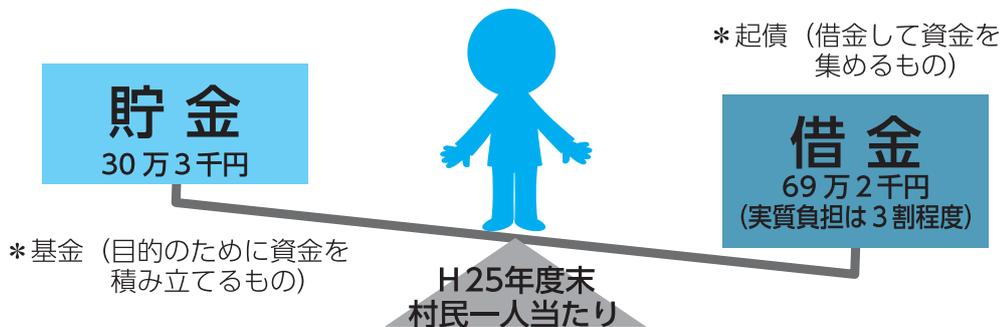
基金残高が35億8千万円！
地方債残高81億8千万円に

会計別 区分 (単位：万円)	歳入決算額	歳出決算額
一般会計	82億2299万円	75億6067万円
国保事業	18億 870万円	17億6018万円
農業集落排水事業	8528万円	7814万円
生活排水処理事業	9198万円	8374万円
介護保険	12億7599万円	12億5816万円
住宅新築資金	296万円	294万円
後期高齢者医療	1 億3576万円	1 億2988万円
簡易水道会計	1 億5622万円	1 億2653万円
上水道事業	3052万円	2329万円

一般会計の歳入の総額は、前年度と比べ1億8367万円増額（前年度対比2・29%増）となったが、健全な財政運営に向け、基金の積立、償還金の返済もでき、実質単年度収支も黒字決算となった。しかし自主財源と依存財源の構成割合が26・2対73・8となっている為、国の方向がどのような形になるのか今後目が離せない。

自主財源 …村税・使用料・寄附金・諸収入（収入や貯金の取り崩しなどです）

依存財源 …交付税・国や県支出金・村債（家計簿に例えると援助やローンのことです）



【監査委員意見書抜粋】

代表監査委員 興梠 良蔵
議選監査委員 伊藤 清起



各課、局とも係数等に誤りはなく、会計処理は正確であることを認めた。

現在、庁舎が分散している状況の中に於いて横の連携がより一層要求される。厳しい財政状況の中でも予定された計画が健全に執行され、黒字決算を以って次年度に引き継がれることは高く評価に値するものと言える。

執行部に於いては国の施策など諸々の課題を解決し、議会、執行部がそれぞれの立場で活力ある地域づくりを目指して議論を深め村の発展、住みよい村づくりに繋げることを期待する。